

自動車リサイクルの更なる発展に向けた理解活動の取組計画

平成 29 年 2 月 24 日
JARC

【事業概要】

JARC は次の方向性の基で、主に自動車ユーザーのための理解活動を取組み、循環型社会の実現に貢献する。

《概要》

JARC は平成 27 年 9 月開催の合同会議の提言の基で平成 27 年 11 月に発足した有識者・ユーザー、関係主体等による情報発信・共有の在り方等に関する議論を踏まえ、自動車リサイクルの更なる発展に向けた自動車ユーザーに対する理解活動を積極的に取組むとともに、自動車リサイクルの円滑な運営を補完する観点で自動車製造業者等、関連事業者、自治体に代表される関係者との連携を促進する。

《特預金出えん等概算額》

13 億円/5 年

《具体的な施策》

1. 情報発信
- ・様々な媒体やツールを活用した分かりやすい情報発信の取組みを実現し、自動車ユーザーの自動車リサイクルに対する認知の向上を図る。そして自動車リサイクルに対する理解の高度化を図る。
2. 情報収集
- ・自動車リサイクルの更なる発展に資するように自動車ユーザーの認知状況やニーズを把握する。
- ・自動車ユーザーのために自動車リサイクルの現状や実態の変化等を把握する。
- ・情報発信などの取組の効果検証に取組む。
3. 連携促進
- ・自動車リサイクルにおける情報発信・共有のハブ（情報結節点）的な役割を担い、自動車ユーザーのために関係者間の情報の共有と連携の促進を図る。

《中期スケジュール》

		H29 年度	H30 年度以降
理解活動	情報発信	直ぐに実施できる取組・既存の取組の改善活動	
		取組内容検討	分かりやすい情報発信の取組
	情報収集	・直ぐに実施できる取組・既存の取組の改善活動 ・情報発信に関する効果検証	
		取組内容検討	自動車リサイクルの現状や実態の変化等の調査
	連携促進	・自治体との情報共有（好事例等共有） ・関係団体との情報共有（課題等共有）	
		PDCA サイクルを回しながら取組を推進	
		更なる発展的取組	

【平成 29 年度実施計画】

平成 29 年度において JARC は主に自動車ユーザーのための理解活動を取組み、循環型社会の実現に貢献する。

《平成 29 年度実施施策》

（単位：百万円）

	取組の要点	概算
情報発信	直ぐに実施する取組、及び既存の取組の改善活動 ● Web ページに掲載される自動車リサイクルに関する情報を整理する。 本財団の Web ページには自動車リサイクルについての訴求点が集約されている。 これら訴求点を自動車ユーザー、学生・子どもなどの対象別に、用語を統一するなど、分かりやすく整理していくことが自動車ユーザーの認知の向上や理解の高度化に繋がるものとする。 （訴求点） ・自動車リサイクルの背景や目的などの概要情報（制度の概要、Q&A 等を含む） ・再資源化等の実施状況・預託金管理状況などの実績情報 ・自動車購入時、使用時、使用済自動車引渡し時などのタイミングで自動車ユーザーが必要とする自動車リサイクルへの関り方* などの個別情報 *自動車ユーザーの自動車リサイクルへの関り方 ・購入時：リサイクル料金を支払う等 使用時：リサイクル部品の使用に努める等 ・使用済自動車引渡し時：使用済自動車を引取業者に引渡す等 ● 自動車売買などの取引において、自動車ユーザーに対する事業者の適切な説明等を促し、以て自動車ユーザーの自動車リサイクルに関する理解が更に促進されるよう、関係事業者を通した理解普及活動にも力を入れる。 ● 自動車ユーザーに対して様々な媒体や広報ツールを活用して、自動車リサイクルの訴求点の認知向上に取組む。また、訴求点に関する情報が集約された本財団 Web ページへの誘導を促進する。 中期的な取組 ● 直ぐに実施する取組、及び既存の取組の改善を行いながら、中長期的な取組の検討を行う。 （一例）外国人自動車ユーザー向けの情報整備、新たな学生・子ども向けの施策等	160.0
情報収集	直ぐに実施する取組、及び既存の取組の改善活動 ● 定点観測で実施している自動車ユーザーに対するアンケート調査で使用する用語が、誤解を生じさせる可能性があることが分かったため、これを是正し、併せて調査内容の見直しも行う。 ● 情報発信に関する効果検証法の検討を行い、これを実施する。 ● 再資源化状況等データの活用ニーズの把握に努める。 中期的な取組 ● 自動車ユーザーと事業者間のリサイクル料金の受渡しなどの取引の実態をはじめ、自動車販売からの使用済自動車としてリサイクル処理されるまでの流通状況の変化など、ニーズに応じて調査・確認する。	100.0
連携促進	直ぐに実施できる取組及び既存の取組の改善活動 ●自治体や関係団体との情報共有・連携の仕組みを構築する。	2.0

【平成 29 年度特預金出えん等計画】

平成 29 年度予算における本理解活動に係る特預金の出えん等見込み額は 262 百万円※とする。
年間通じて本理解活動を取組み、必要とする金額が確定した後に経済産業大臣及び環境大臣の承認を得たうえで特預金の出えん等を行う（平成 29 年度下半期を予定）。

※自動車リサイクルの更なる発展に向けた理解活動の実施に要する費用の各法人負担額

（離島地域の自動車ユーザー数や使用済みとする自動車ユーザー数などの割合に応じて費用を負担）

・資金管理法人負担分：249 百万円

・指定再資源化機関負担分：3 百万円

・情報管理センター負担分：10 百万円